

未来を拓く科学大好き教育 通信

郷土博物館 特別研究員 指導課 特別指導員
岩波 英一



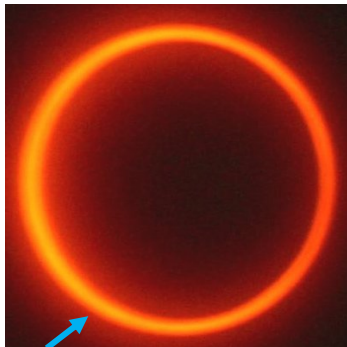
「理科室のおじさん」
樋口真一さん

「理科室のおじさん」を訪ねて

その17日立市立諏訪小学校

日立理科クラブ「理科室のおじさん」樋口真一さんを訪ねました。諏訪小学校では、一部の学年で理科の教科担任制を行っています。5月21日(月)には、全校児童による金環日食観察会を実施するなど、理科教育に力を入れている学校の一つです。「当日は、全児童に金環日食専用メガネ(安全な専用下敷き)を準備し、保護者も加わって盛会に観察会ができました。」と、今年赴任した関辰洋校長先生が、うれしそうに話していました。

「理科室のおじさん」樋口さんは、長野県梓川村(現在は松本市に合併)出身で、高校生まで過ごしました。上高地に近く山や川など自然に恵まれた所だそうです。6人兄弟の3番目で、上のお兄さんが趣味で蝶の採集をしていた影響で、小学生の時から蝶に興味を示し、高校生まで蝶の採集を行っていたそうです。「ここは、南限・北限の蝶や高山の蝶が多く生息し、100種類以上の蝶を採集し、立派な標本を作ったのが自慢です。」と、当時を懐かしく思い出しながら話をしました。工業高校を卒業し、日製日立工場に就職し、主にNDE(非破壊試験)関係に従事しました。日本の原子力発電機器の特殊検査技能は高く、技術開発支援者として、樋口さんは世界各国に出張する機会が多くあったそうです。「長期出張になることもあり、勤務と休暇をうまく活用し、海外の観光スポットにも出かけました。もちろん、妻も一緒ですよ。」と、笑顔になって話をしていました。スイス・ニュージーランド、アメリカ、カナダなど多



吉田陽一先生・撮影



諏訪小・観察会

くの国を訪ねたそうです。そんな話も、機会があれば諏訪小学校の子どもたちに聞かせてほしいですね。最初に、「理科室のおじさん」としての学校での仕事は、3年生の理科で「蝶の一生」の観察学習があることを聞き、捕獲網を手作りし、常陸太田まで出かけて蝶を採集し、キャベツに卵を産みつける環境を整えるなどして、蝶の卵を得ることだったそうです。「見事、採集した黄色い卵が、どんだん色が濃くなってオレンジに変わり、やがて青虫が生まれ、さなぎになり、孵化して成虫の蝶になるまでを観察した子どもたちの満足した顔を見ていると、とても楽しく、やりがいがありますね。」と、子どもたちへの愛情が満ち溢れていました。週2回、学校でのサポートですが、「子どもたちがとても可愛いですね。」と、微笑んでいた様子がとても印象に残ります。休日等を活用して、市民農園での野菜作りがもっかの趣味だそうです。「これからも、諏訪小のために科学教育にかかわるアイデアを出したい。」と、張り切っていました。

— 問い合わせ先 —

Tel 0294(23)3231 FAX 0294(23)3230

IP 電話 050(5528)4928 内線電話 8954

E-mail:hakubutsukan1@city.hitachi.lg.jp

日立市郷土博物館 岩波 英一